

## 特定非営利活動法人雨岳文庫を活用する会設立趣旨書

山口家は、相州上粕屋村(現、伊勢原市上粕屋)の大山街道に面して、近世中期より名主を務め、第6代将軍の側用人として新井白石を擁して幕政を担当した間部詮房の弟間部詮之給地となって以後、代々間部家の家政を担当し、また、明治の初頭には相州最大で最初の自由民権結社『湘南社』の社長であった9代目当主山口左七郎は、神奈川県令、第1回帝国議会議長であり、自由党副総裁・海援隊の副隊長でもあった中島信行、および、その妻で、女性解放運動家の草分け的存在として、また、書家としても高名な中島俊子(旧姓、岸田俊子)と親交のあった故もあって、客間の襖や掛け軸に二人の遺墨も多数残っています。

こうした山口家の建物および歴史資料を保存し、修復して、これらを21世紀に伝えるとともに、広く世の人々に展示して、人々の学習や、歴史研究に供することは、わが国地方文化の伝統を将来に生かすうえで、きわめて意義あることと思います。それは、単に地域の文化財保存と言った次元にとどまらず、私たちの文化生活を豊かにし、かつ、日本史・文化史・民俗学等各分野の発展に寄与すると思えます。

そこで、私たちは、山口家の建物・敷地を含む一切の文物を保存・展示・生涯学習の利用に供する目的で、平成4年に私的団体『雨岳文庫』を設立しました(ちなみに、『雨岳』とは、山口左七郎の雅号であり、『相州大山(雨降山)』の意味であります)。と同時に、それを財団法人『雨岳文庫』に移行したいと決意し、生涯学習活動や、歴史研究に供してきました。また、建物については平成10年に国の有形文化財に登録されております。

平成15,6年になって、何人かの方々から、とりあえず『雨岳文庫』を活用する特定非営利活動法人を先行して設立しようという発議があり、特定非営利活動法人雨岳文庫を活用する会を設立しようと決意した次第です。

平成 18年 4月 8日

特定非営利活動法人雨岳文庫を活用する会

設立代表者

山 口 匡 一